

# 福島県小学校長会会長あいさつ

## ～ 活力に満ちた学校経営を ～



会 長 佐々木義通

このたび福島県小学校長会会長をおおせつかりました佐々木義通です。どうぞよろしく願いいたします。

時代は、「平成」から「令和」へと移りました。しかしながら、福島県小学校長会が、大正

15年4月の結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のために、真摯な研究と実践を重ね、多大な成果を上げてきたことは、今後もつないでいかなくはなりません。そして、先輩の校長先生方が自校の学校経営の充実はもとより、本県小学校教育の充実のために思いを一つにして尽力されてきたということも同様であります。私は、90年にわたる本会の歴史と伝統、そして、先輩方の小学校教育の充実に対する熱い思いを受け継ぎ、会員各位の理解と協力の下、本会の会長として全力を尽くす所存です。

本校長会会則第3条（目的）には、「本会は、会員の職能の向上と小学校教育の充実刷新を図り、本県教育の進展に寄与することを目的とする。」とあります。ですから、私たちは、校長会という場で自ら研鑽を積むために集い、互いに切磋琢磨し合いながら自らの職能を高め、支援し合い、力を合わせてそれぞれの学校経営の充実、そして本県小学校教育の充実刷新のために汗を流していかなくてはなりません。それは、言うまでもなく児童一人一人の望ましい成長の実現を果たすことにつながります。これこそが本校長会の意義であり、役割であるとも言えます。

さて、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故から丸8年が過ぎました。この間、本県の各小学校では、国、福島県教育委員会及び各市町村教育委員会の復旧・復興の取組方針の下、各方面からの多大なご支援をいただきながら、学校の機能と教育環境の回復に必死になって取り組んできました。その中であって各校長は、校長が担うべき役割を再確認し、「学校

は復興の最大の拠点」の合い言葉の下、子どもたちの命を守り、安全・安心を最優先にリーダーシップを発揮してまいりました。その甲斐あって、現在、多くの学校では震災以前の教育活動を取り戻し、何よりも子どもたちは元気に学校生活を送っております。被災地にあっては、昨年度、五つの町村において地元での小中学校の再開を果たしました。

しかしながら、東日本大震災や原子力発電所事故の風評及び風化の問題、新入生が激減している学校など、現状は大変厳しいものがあり、それは今後も続くことが予想されます。児童にあっては、学力や体力の向上、増え続ける不登校などが喫緊の課題となっています。さらに多忙化解消や大量退職期における人材育成、新学習指導要領への対応など、早急に解決すべき様々な課題が山積しているのも事実です。このような時だからこそ、校長がリーダーシップを発揮し、教育行政の指導を仰ぎながら学校経営を推し進めていくことが肝要であると考えます。

学校教育の根幹は、何と云っても子どもへの愛情であり、そして授業の充実です。そのために、校長はリーダーシップを発揮し、教職員の研修を充実させなければなりません。また、地域の特色・特質を生かした創意工夫あふれるカリキュラム・マネジメントも期待されています。校長自らの責任に基づく、教育理念の具現化を図り、活力に満ちた学校経営ができるよう、校長会の組織的な取組を重視し、全会員が心を一にして、子どもたちのために頑張っていきたいものです。改めて会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。